

九州国立博物館開館15周年記念 特集展示

織物

に魅せられて

TREASURES FROM THE TEAROOM
PRIZED TEXTILES OF THE MAEDA CLAN

加賀前田家伝来の名物裂



恋帛情结—加賀藩前田家族收藏的珍贵丝织品

다도문화 발달 속에 꽃핀 염직물 수집의 세계
—가가번 마에다가문 컬렉션—

すべて《前田家伝来名物裂帖》より 九州国立博物館蔵

2020 12 / 1^火 2021 1 / 24^日

【前期】2020年12月1日(火)～23日(水) / 【後期】2021年1月1日(金・祝)～24日(日)

[開館時間] 午前9時30分～午後5時(入館は閉館の30分前まで) [会場] 九州国立博物館 4階 文化交流展示室 第9室

[休館日] 毎週月曜日、12月24日(木)～31日(木) ※1月11日(月・祝)は開館、1月12日(火)は休館

©新型コロナウイルス感染予防対策を実施しております。

KYUSHU NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館

太宰府天満宮横



Aあが English text 中文说明牌 한국어 설명문



織物 に魅せられて

加賀前田家伝来の名物裂

室町時代以降、茶の湯の広まりとともに、舶来の古くて美しい染織品を蒐集する文化が開花しました。今も大切に保管されている古裂のうち、16世紀ごろまでに日本に渡ってきていたとりわけ古くて貴重なものは、多くが茶人に愛された由緒のある織物であることから「名物裂」と呼ばれています。本展では、美しい古裂の数々をご紹介します。

絢爛豪華！ 前田家の名物裂

加賀藩第3代前田利常(1593-1658・第2代藩主)は文化政策と工芸の殖産に力を入れ、華やかな百万石文化を作り上げました。時代のモードをけん引する茶人「数寄者」として知られた利常は、貿易窓口であった長崎や貴重なものがあつまる京都にて染織品を蒐集しました。

前田家伝来の裂
といえばコレ！



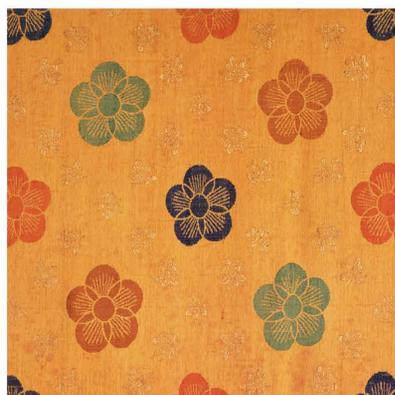
「有栖川錦」
15-16世紀／京都国立博物館【展示期間：後期】

名物裂の仕掛け人ともいえる
茶人・小堀遠州の好んだ裂



「遠州緞子」
15-16世紀／京都国立博物館【展示期間：前期】

利常公があつめた名物裂とは…？
京都国立博物館所蔵の前田家伝来名物裂より



「撫子蛭文様金襴」
16世紀／京都国立博物館【展示期間：前期】

日本では撫子と蛭に見立てられた中国の梅と蜂



「和久田手金襴」
15-16世紀／京都国立博物館【展示期間：前期】

小さな水辺の世界

家宝の織物

茶道具を彩るための染織品は、茶の湯文化の発展に伴い、実用を超えて「愛でる」ために蒐集するものへと変化してゆきました。それらのコレクションは、家の財産として、大切に伝えられました。



「和久田金襴」 14世紀【展示期間：12/1～12/13】

中央アジアで用いられた金糸は、ガット(動物の腸)に金箔を貼ったもの。中国・明朝の金襴の源流である金朝の金襴にも、ガットが用いられています。



「盤龍文様金襴」
12-13世紀／個人蔵【展示期間：後期】

豪華な金の模様の数々！



「前田家伝来名物裂帖」より 14-16世紀／九州国立博物館【展示期間：左より前期、前期、後期、後期】

めくるめく金の世界

前田家には、主に掛け軸の表具に使用された裂を貼り込んだ4冊の大型の裂帖が伝わっていました。この前田家伝来の裂帖のうち「貳番」の札をもつ1冊が、2012年に九博の所蔵品になりました。九博の裂帖の特徴は、金襴や印金といった金模様の織物ばかりだということ。書など格式の高い作品にあわせるための織物が集められているのです。今回は、九博の裂帖のほかに、個人蔵の「参番」の裂帖をあわせてご紹介します。



大坂の豪商
鴻池家があつめた
お茶道具の収納袋(仕覆)



茶筒の中にはなんと87種類の貴重な裂が！
付属の目録には鴻池家の
家宝であることが記されています。



「花麒麟金襴」 14-15世紀【展示期間：12/15～12/23】



「富田金襴」 14-15世紀【展示期間：1/1～1/11】

